

## ◆第1回キャリア教育講演会

- 1 日時 平成23年7月6日(水) 14:30～16:10
- 2 対象 本校生徒、職員、保護者のみ
- 3 講師 米長邦雄氏(永世棋聖・日本将棋連盟会長)
- 4 演題 「 苦しい時こそ最大のチャンス 」
- 5 講師職歴・経歴

棋聖戦で初タイトル獲得後、数々のタイトルを手中にする。2003年に現役を引退。日本将棋連盟役員立場から、将棋の普及・発展、後進の指導に力を注ぐ。講演や執筆活動においては、独自の勝負観・人生観を展開。また、8年間の東京都教育委員の経験を生かし、教育問題にも精通している。

1943年 山梨県生まれ

1963年 将棋のプロ棋士となる。

1985年 永世棋聖となる。

1993年 第51期名人となる。

2003年 史上4人目の1100勝を達成。

8年間東京都教育委員を務め、現在、日本将棋連盟会長に専念。



## 6 講演要旨

今回の講演は「苦しいときこそ最大のチャンス」という題で話をされた。その内容は、これまでの歴史上の偉人の話を交えながら、「高校時代にやってほしいこと」「どういう大人になったらいいか」というメッセージが込められた話であった。

まず野口英世の話では、英世のガーナでの功績やガーナに設立した「野口研究所」の話を通して、ガーナの人が日本を尊敬しているように、世界中で日本ほど他国から好かれ、尊敬されている国は無いので、自国に誇りを持つことのできる人になろう、との話があった。また、チツソの創業者である野口遵の功績や大石蔵之助など多くの偉人の話から、今の日本人に大切な「義」の心について生徒達に語られた。自分を犠牲にし、どんなに無利益なことであろうと他人のために何かをするという「義」の心に生徒達は感銘し、自分自身を見つめ直していたようであった。

また、米長先生の息子さんが就職するときの話を例に挙げて、就職に対する独自の考えを話された。それは、「学校は親が喜ぶ学校に入り、就職は親を悩ませるような企業に入るべき」との考えであった。その理由とし

て、今は小さい企業であったとしても、企業は30年単位で変わっていくので、30年後すなわち50歳を過ぎたときにどういう企業になっているかを見極めることが大事であるからだ、という理由であった。そして世の中を見るときに、「何故そのようなことが起きたのか、今はどういう状況なのか、今何をすべきか、この後どうなるのか」について常に考えることの大切さを述べられた。

米長先生は東京都の教育委員をされた経験があり、その経験から教育論についての話もされた。20カ国を対象に行った世論調査で「あなたは学校の先生を尊敬していますか」という質問に諸外国が80%以上の結果だったのに対し日本は21%であったこと、「自分の未来に希望を持っているか」という質問に対し日本は34%であったこと、そしていずれも20カ国中最下位であったことを例に挙げ、学力調査で世界1位のフィンランドの教育事情について話をされた。

さらに、デジタル化が進んでいる現代社会を「情報というゴミ」という言葉で述べ、その中で正しい情報を手に入れることや昔のアナログの大切さについて、昔の歌人の和歌も例に出しながら話された。そして最後に女子生徒に対して、「与謝野晶子のような女性になってほしい」というメッセージを送り、講演を締めくくられた。

講演後、質疑応答があり、最後に生徒会会長の梅野くんから謝辞があり、講演会は終了した。

#### ◆第2回キャリア教育講演会(玉名高等学校附属中学校開校記念講演会)

- 1 日時 平成23年10月1日(土) 10:45~12:15
- 2 対象 本校生徒、職員、保護者、来賓のみ
- 3 講師 福本容子氏(毎日新聞 論説委員)
- 4 演題 「可能性は無限大」
- 5 講師職歴・経歴

玉名郡長洲町出身。

熊本県立玉名高等学校、早稲田大学教育学部(英語英文学科)を卒業後、1987年 毎日新聞社入社。

早大在学中にオハイオ州アンティオーク大学留学。

また、入社後には、マサチューセッツ工科大学修士課程へ留学。

毎日新聞では、金融、エネルギーなどを担当。

ロンドン欧州総局特派員、経済部デスク等を経て、2008年より論説委員。

TBS情報バラエティ「ひるおび！」金曜日、テレビ朝日系報道番組「サンデーフロントライン」にコメンテーターとして出演中。

#### <保護者の皆様へ>

今回は、附属中学校開校記念講演会として実施するため、いくつかのお願いがあります。御理解と御協力をお願いいたします。

- (1) 来賓駐車場等の関係から、自家用車の乗り入れは出来ません。
- (2) 保護者席は、原則として第1体育館後方の2階席になります。また、開場の関係上、席に限りがありますので、あらかじめ御了承ください。





## 6 講演要旨

今年度の第2回キャリア教育講演会は玉名高等学校附属中学校の開校記念式典の一環として開催された。講師としてお迎えしたのは、毎日新聞論説委員の福本容子氏。本校の同窓生の方で在校生にとっては先輩にあたる。「可能性は無限大」と題しての講演となった。

最初に講演依頼の電話があった時にはびっくりしたとのことであった。母校からの突然の連絡に在学中に何か悪いことでもしていたのだろうかと思われたようだ。

講演では、現在の仕事のことについて話をされた。「論説委員」とは新聞記者ではあるけれど、社説を書く新聞記者のことで、社説には新聞社としての意見が示される。毎日、社説に何を取り上げるかの検討が20名ほどの委員の間で行われているそうである。また、新聞社によって共通した話題を扱うこともあれば、違うものを取り上げる場合ももちろんあるとのこと、このことは複数の新聞に目を通してしている生徒諸君にはよく分かることであろう。ただ、同じ新聞社の中で意見が分かれることも珍しくはなく、論説委員の間で激しいやりとりが行われることもあるとのこと。

現場に向かう新聞記者が、記事のもとになるネタを集める仕事に従事しているのに対して、論説委員は、ネタを料理する仕事をしているとの話があった。

そして、現在の仕事に従事するようになったのは前々から計画してそうなった訳ではないということから、2人の人物のことについて話を進められた。ひとりアップル社を創設したスティーブ・ジョブズ氏、もう一人は世界で初めてインスタントラーメンを考案し世に送り出した安藤百福氏である。この2人には共通点があるとのこと。お二人とも決して順風満帆な人生ではなく、多くの失敗を経験し、その中から新たな出発点を見出したこと。失敗することを含め、人生の多くのことは点と点でつながるが、どうつながっているかについてはあとになって分かることであり、はじめから分かっているものではないということであった。妥協しないで好きなことを続けることが、不幸なことや失敗に遭遇してもそのあとの大成功につながるということであった。そのことに関連してジョブズ氏が語った言葉を紹介された。「ステイ・ハングリー」、「ステイ・フォーリッシュ」という言葉である。「どん欲であること」、そして「常識から考えるとあほらしいことに拘ること」である。常識的なこととして皆が同じことをやっていたのでは何の進展性もないということ。

そして最後にご自分の玉高時代のこと、大学受験に失敗し予備校生活に入られたことなどについて話をされた。大学入試で失敗した時にはかなりショックを受け、その先の人生を考えることができないうくらい落ち込んだそうである。しかし、そのことが新たな進学先の決定につながった訳で、失敗をいかに成功につなげていくかという視点でご自分の半生について話をされた。本校生に対しては「失敗があっても諦めない」「自分にしかできないことをする」「目の前のことだけで判断せず、世界は広い」という言葉を残していかれた。例え、生活の拠点として地元玉名にいても、インターネット等を通じれば世界は身近なものとなり、このことを活用しない手はないということであった。

講演後、質疑応答があり、最後に生徒会副会長の福田君から謝辞が、同じく副会長の濱治さんから花束贈呈があり、講演会は終了した。